

市町村への伴走支援

1. 福知山市 伴走支援前の状況（事前ヒアリングの結果）

- 事前ヒアリングの結果、福知山市では、生活支援コーディネーター（SC）の役割や活動に関する市の方針が明確化されておらず、SCの機能が十分に発揮できていないことが課題であることが分かった。

現状

- 各日常圏域（9圏域）に設置されている地域包括支援センター（8つは直営。1つは委託。）に、**平成31年度から第2層生活支援コーディネーター（以下「SC」という。）を配置**。（現在11名を配置済み。）SCは地域の住民（元民生委員等）から公募する等して選出。
- 令和3年度から3つの協議体において訪問型サービスBを開始。令和4年度から1つの協議体で訪問型サービスBの開始を検討中。
- SCは**地域資源マップを作成**するなど、地域課題や資源の見える化を実施。
- **月に1回、各圏域のSCが集まり活動の報告をする場が設けられている**。また、SCを配置する前に研修を実施している。

目指す姿・取り組みたいこと

- **第2層コーディネーターが「地域包括ケアシステムとは何か」、「自分がコーディネーターとしてやるべきことは何か」を理解し、それに向かって実際に行動に移せるようになる**。
- コロナ禍のなか、コーディネーターとしてできることが何かを知る。
- これまで地域課題や資源のインプット作業を行ってきた一方、それをアウトプットする場がないことから、自分のやるべきことや、やらなければならないことがイメージしづらい状況にあり、**成果・成功体験や自分のもっている情報力・コーディネーター力を住民へ還元できるような場・仕組みづくりが大切ではないかと考えており、良い事例や方法等があれば御教授願いたい**。

課題意識

- コロナ禍で**SCの活動がストップした地域があり、活動再開した時にどのように地域に働きかけをしてもらうべきか分からない**。
- 地域資源のインプットは出来ているが、**アウトプットが出来ていない**。（情報を地域住民に還元できていない。）
- 介護予防に無関心な層へのアプローチの仕方が分からない。（地域包括支援センターに相談に来る際は重度化しているというケースが多い。）
- **SCへの研修等のフォローアップ体制が十分ではない**。（研修は配置前の1回のみ。包括職員の十分なフォローが見込めない地域もある。）SCをどのように育成していったらいいか分からない。
- SCに対して、**市としての方針（目指す姿）を明確に共有することができていない**。市としての軸が確立できない。
- 包括において、**圏域ごとの地域の特性は把握していても、要支援者の状態や必要な支援、具体的課題等を圏域ごとに十分把握し、課題を分析できていない**。（包括が多忙であることも1つの原因。）
- **包括とSCとの連携が十分にできていない**。（連携するメリットが伝わっていない。）
- **地域ケア会議が個別ケースの共有に留まっている**。（開催頻度も定まっていない。）

市町村への伴走支援

1. 福知山市 伴走支援の実施概要

	第1回	第2回	第3回
基本情報	<p>日時：2021年12月1日 場所：福知山市役所 参加者：福知山市、成和包括職員・第2層SC、三和包括職員・第2層SC</p>	<p>日時：2022年1月31日 場所：オンライン 参加者：福知山市、南陵包括職員、南陵地区第2層SC、桃映包括職員</p>	<p>日時：2022年2月14日 場所：オンライン 参加者：福知山市、全地区包括職員、第2層SC</p>
実施内容	<ul style="list-style-type: none">市の現状の取組と課題意識の共有2地区の第2層SC・包括の取組の現状と悩みの共有悩みに対する助言	<ul style="list-style-type: none">2地区の第2層SC・包括の取組の現状と悩みの共有悩みに対する助言第3回に向けた作戦会議	<ul style="list-style-type: none">各地域のSC・包括職員を対象とした講義地域づくりの考え方についてレクチャーと意見交換今後のアクションプランに関する意見交換
支援体制	<ul style="list-style-type: none">◆ アドバイザー：東北こども福祉専門学院 副学院長 大坂純 氏◆ 京都府、中丹西保健所◆ NTTデータ経営研究所		

市町村への伴走支援

1. 福知山市 伴走支援の実施内容と実施結果

- 「生活支援コーディネーターの役割や活動方針の明確化」を到達目標に掲げ、伴走支援を実施した。
- 伴走支援の結果、市の方針が明確化され、市独自で策定している「地域支援コーディネーターの手引き」が改訂された。

事前ヒアリングのアセスメント結果

- 生活支援コーディネーターの役割や活動の方針について、市町村の軸がない。または軸があっても生活支援コーディネーターと十分に共有できていない。
- 生活支援コーディネーターに任せきりになっている。

実際の支援内容

支援1回目

- 福知山市内で取組が進んでいる地域の**SCと包括職員**の悩みや現状の取組についてヒアリングを行い、助言を行った。
- 市役所職員だけでなく、一部の**SC・包括**が豊明市多職種合同ケアカンファレンスを視察。

支援2回目

- 第1回伴走支援で得た気づきの共有を行った。
- 第1回とは異なる地区のSC及び包括職員の悩みや現状の取組についてヒアリングを行い、助言を行った。
- 第3回伴走支援で市内全地域の包括及びSCを対象とした研修（アドバイザーからの講義）を行うこととし、実施方法や講義の内容等について検討を行った。

支援3回目

- 市内全地域のSC・包括向けの**講義及び意見交換**を行った。
- SC・包括からの講義での気づきの共有や質疑を行い、適宜助言を行った。
- 福知山市として**SCの活動の基本方針をまとめ**、具体的な取り組み方や今後の意見交換予定の周知が行われた。

3回の伴走支援を終えた後の到達点

【福知山市の到達点】

- 市としての生活支援コーディネーターの役割や活動方針を明確にし、各包括・SCに対して共有することができた。
(具体的成果)
 - 第3回伴走支援（各包括・SCへの研修）時に、市のSCの活動基本方針と具体的な取組内容に関する考え方を共有
 - 市が独自で策定している「地域支援コーディネーターの手引き」の全面改訂
- 各包括、SCが互いに連携することの意義や地域に出て地域住民の暮らしを丁寧にする大切さに気付くことができた。
(具体的成果)
 - 一部の包括では、包括の利用者訪問にSCが同席するなど協力体制を構築できた。

市町村への伴走支援

2. 木津川市 伴走支援前の状況（事前ヒアリングの結果）

- 事前ヒアリングの結果、木津川市では、市としての総合事業の目指す姿が明確ではなく、誰にどのような支援が必要なのか具体化されていないことが課題であることが分かった。

現状

- 人口 75,160人 高齢化率 25.7 % 75歳以上人口伸び率 47.1% 包括設置数 4箇所 要支援認定者数 954人
- 総合事業のサービス・提供事業者・利用者数は以下の通り。（詳細は参考資料参照）
 - 訪問従前（給付の指定を受けている事業所。81~109人/月）
 - 訪問A①（訪問介護員による生活援助。事業所数が少なく、ケアハウス併設の事業所が、ケアハウス利用者のみ提供。15件/月。）
 - 訪問A②（シルバー人材センターから研修修了した登録者を派遣。活動者は1,2人。活動者の少なさ、調整の難しさから利用なし。）
 - 訪問C（閉じこもりに対する支援。3か月保健・医療の専門職が支援を行うことで、一般介護予防事業に繋げていく）
 - 通所従前（給付の指定を受けている事業所。138~187人/月）
 - 通所A（6カ月の機能回復型。通所介護・訪問看護・従前を提供している事業所。28-61人/月）
 - 一般介護予防事業（事業者から講師が派遣される。送迎なしの体操型、送迎ありの閉じこもり防止型がある。）
- 合併前の旧3町で発展した時期にずれがあり、今後の高齢者人口の推移等も旧3町で異なる。

目指す姿・取り組みたいこと

- **総合事業が適切に運営できるよう、統合・集約を含む事業整理を行い、循環を図りたい**
- 次の介護保険計画で行いたいことは以下の通り（係内での構想段階）
 - 一般介護予防事業（体操型）は廃止（介護予防サポーター事業との統合）、従前・緩和の基準の廃止、一般介護予防（閉じこもり防止型）は他の事業に参加している人は併用不可とする など
- **市として、どのような状態像の人はどのサービスを利用するかという整理を行いたい（フローチャートの作成）**

課題意識

- <サービス提供における課題>
- 訪問型：A型①を受託する事業所が少ない。A型②は、市で住民ボランティア養成の研修を実施しているが、参加者が少ない、シルバー人材センターとの連携が上手くいかない等の理由で、利用者と支援者のマッチングに至らない。
 - 通所型：A型は事業者が受託せず枠が少ない。また、6か月1クールだが、**利用者が卒業したからサービスを利用し続ける**（卒業したからない理由は一般介護予防事業にはない送迎があるため、友人がいるから、等）。事業所も卒業の意識が希薄。
 - 一般介護予防事業：**通所Aの卒業者が一般介護予防事業に参加する流れを想定していたが、卒業しないため、一般介護予防事業の参加者が少ない。また、同じ事業でも旧3市町で参加者の状態像、活動内容が異なる。**
- <ケアマネジメントにおける課題>
- 包括は自立支援の意識がみられるが、居宅に委託すると、申請者の要望をそのまま受け入れたプランが作成される。
 - **包括から、市として住民に何を求めているのか明確にしたいと言われる。**
- <生活支援体制整備事業における課題>
- 地域で課題を見つけて解決していく仕組みをどうつくるかが重要と認識しているが、定期的な会議の場で市は何をしてくれるのかと聞かれる。

市町村への伴走支援

2. 木津川市 伴走支援の実施概要

	第1回	第2回	第3回
基本情報	日時：2021年11月29日 場所：木津川市役所 参加者：木津川市	日時：2022年1月21日 場所：オンライン 参加者：木津川市、木津東包括職員、木津西包括職員、加茂包括職員、山城包括職員	日時：2022年2月25日 場所：オンライン 参加者：木津川市
実施内容	<ul style="list-style-type: none">市の現状の取組と課題意識の共有総合事業の背景・趣旨の確認総合事業見直しの方向性について意見交換	<ul style="list-style-type: none">総合事業の見直しに向けた課題と対応策の検討	<ul style="list-style-type: none">総合事業の見直しに向けた課題と対応策の検討今後のアクションプランに関する意見交換
支援体制	◆ アドバイザー：医療経済研究機構 主席研究員 服部真治 氏 ◆ 京都府、山城南保健所 ◆ NTTデータ経営研究所		

市町村への伴走支援

2. 木津川市 伴走支援の実施内容と実施結果

- 「総合事業の目指す姿のために提供すべき事業・サービスの全体像を明らかにすること」を到達目標に掲げ、伴走支援を実施した。
- 伴走支援の結果、総合事業の見直しの方向性について課内で合意形成がなされ、事業・サービスの全体像の仮説が構築された。

事前ヒアリングのアセスメント結果

- サービスを作ることが目的化している（市としての総合事業の目指す姿が明確でない）
- 誰にどのような支援が必要なのか具体化されていない

実際の支援内容

支援1回目

- **総合事業の理念・制度の目指す姿と事業の現状のギャップを理解するため、市職員と講義・意見交換を行った。**
- 1回目終了後、課内・包括で検討を行い、総合事業の体系の根本的な見直しが必要であることについて課内で合意形成した。
- また、地域の資源を活用する重要性を認識し、包括や社協とサービスのあり方について検討を始めた。

支援2回目

- 木津川市で検討した**総合事業の見直しの方向性案を基に、意見交換を実施**。全包括のセンター長が新たに参加し、事業やケアマネジメントのあり方について意見交換を行った。
- 市役所職員が豊明市多職種合同ケアカンファレンスを視察。

支援3回目

- 木津川市で検討した**総合事業の今後の事業体系案を基に、意見交換を実施**。窓口フロー、短期集中サービスのあり方、移動支援サービス等の実施方向性について議論した。
- **次期計画での施策化を見据えて今後行うアクション（ケア会議の実施等）について市・包括間で意見交換を行った。**
- 市役所職員に加え、包括職員が豊明市多職種合同ケアカンファレンスを視察予定。また、寝屋川市へC型サービスに関する視察を行う予定。

3回の伴走支援を終えた後の到達点

【木津川市の到達点】

- 次期計画を見据え、市の総合事業の見直しの方向性について課内で合意形成を行い、事業・サービスの全体像の仮説を構築した（具体的な検討方向性）
 - ケアマネジメントにおける自立支援の強化のため、窓口対応の見直しを図る
 - 要支援者の状態改善を実現するために短期集中サービスのあり方を見直す
 - 社会参加による介護予防の促進等のため、移動支援サービスを新たに開始する 等
- 上記の実現に向けて、包括や保健所と今後の取組方向性と、今後の協働体制について合意した（具体的な成果）
 - 包括と政策形成を目的とした個別ケースの検討の場（地域ケア会議）を新たに設ける予定
 - 短期集中サービス等におけるリハビリテーションセンターとの連携について、保健所等と今後調整